

1 主題名 家族のつながり（4－6 家族愛）【資質・能力】豊かな心 - 思いやりの心
資料名 「大好きだよ キョちゃん」 出典 藤川 幸之助（クリエイツかもがわ）

2 主題設定の理由

○ 本学級の生徒は、日々の生活の中で家族に愛情を注がれ育てられたと感じているものがアンケート結果から90%を超えている。核家族の中で生活している者が多いが、小さい頃に祖父母に世話をしてもらったり、近くに住んでいたりと、何らかのかかわりをもっている生徒も少なくない。そのようなことから、祖父母を大切に、会話の端々からもかけがえのない大切な家族であると認識している様子が見られる。しかし、この時期の生徒は自我意識も強まり、自分の判断や意志で生きていこうとするあまりに、幼少期と同じように世話をやかれたり、叱責されることに対して苛立ち、反抗的な態度をとってしまうこともある。そこで本時において、家族はかけがえのない存在であることに気づき、その一員である自分にできることを考えさせることは大変意義がある。

○ 家族はお互いが深い愛情で結ばれ、私たちを支えるかけがえのないものである。その家族が心の安定や休息の場として生活していくところが家庭である。近年では、さまざまな家族の形が存在し、家族のあり方も多様化している。しかし、家族の形が変化しても人は過去から受け継がれた生命の流れの中に存在し、自分があるのは、祖父母や父母があり、その子どもとして深い愛情をもって育てられたからであることは変わらない。家族の成員相互が深い愛情や信頼関係によって結ばれていることが、より充実した家庭生活を送ることができ、温かな家族関係を形成していることに気付かせることは大切である。

○ 本資料は、認知症が進み、奇妙な行動をする祖母と、孫である主人公とのかかわりを綴った内容である。認知症になる前に書いた主人公への思いが詰まった日記を読んだり、薄れゆく記憶をとどめようと努力したりする祖母の姿を知り、気持ちが変容していく。主人公が祖母に対してできることを懸命にやっていく姿を通して、家族が互いの深い絆で結ばれていることに気づき、家族のつながりを大切にしようとする心情を育むことができるものであると考える。

本主題の指導に当たっては、まず導入で、本資料の挿絵を提示し、祖母と主人公の立場が逆転していること、主人公の困った表情、祖母のおかしな行為から、老いが進み日常生活の中で家族の手が必要である状況にあることを気付かせる。

展開では、主人公の心の変化を感じとりやすくするために、資料を3つの場面にわけて配布し、発問をしていく。資料①では、認知症のために奇妙な行動をとり、家族に迷惑をかける祖母の姿を目の当たりにした主人公の気持ちを考えさせる。ここでは、「病気なのだから仕方がない」などの表面的な反応で終わらないよう、追発問を加えながら祖母の行動に対する戸惑い、苛立ちなどを出させる。資料②では、偶然みつけた祖母の手帳を読んだことをきっかけに祖母の苦しみ、家族や主人公に対する愛情をもち続けていることを確認するとともに、祖母の本音をかいまみたことをきっかけとして主人公の気持ちの変化を考えさせる。祖母から「迷惑ばかりかけられている」と自分の立場のみから感じていた主人公が、一番つらい思いをしているのは祖母自身であると感じ、祖母の立場に立って考えることで、申し訳なかったという気持ちだけでなく、これから自分が祖母の支えになっていこうとする主人公の姿に気付かせる。資料③では、祖母が見舞いの別れ際にとる行動に注目させ、それを知ったときの主人公の気持ちを考えることで、家族が互いのことを思い、家族の一員として自分ができることをやろうとすることが家族の絆を深めるための大切な行動であることに気付かせる。しかし、主発問だけでは主人公と祖母のことに終始し、自分と家族のつながりについて考えられない場合もあると思われる。そこで資料から離れ、自分が家族のためにできることを考えさせる。

終末では、本時の感想をまとめ、「家族はつながってほしい、つながることで喜びを感じたいと願っているんだね」とつぶやき、余韻をもって終わらせる。

3 本時における指導の工夫点

段階	No	ねらい達成に関する工夫点
導入	①	資料に興味をもたせるため、挿絵を提示し家族の立場が逆転していることに気付かせ、課題意識をもたせる。
展開		場面や状況に応じて、主人公の気持ちや心の変化をとらえやすくするために、資料を3つの場面に分けて提示する。
	②	主人公がもつ弱さにふれさせるため、戸惑いや苛立ち、腹立たしきを出させる。
	③	祖母の本音を知り、主人公が自己変革する気持ちをとらえさせることで、自己中心的な考え方を改めると共に、問い返しを行いながら家族のつながりについて気付かせる。
	④	主人公が祖母の行為を知ったときの気持ちを想起し、自分の考えを学習プリントにまとめたり、ペ

		ア交流をしたりすることで家族のつながりについて考えを深めさせる。
	⑤	これからの自分と家族とのかかわり方につなげるために、自分が家族のためにできることを考えさせる。
終末	⑥	学習プリントに感想をまとめ、価値を再確認させる。

4 本 時

(1) ねらい

認知症である祖母に対する無私の愛情を注ぐ主人公の姿を通して、家族は互いの深い絆で結ばれていることに気付かせ、家族のつながりを大切にしようとする心情を育む。

(2) 準 備 資料①～③、道徳プリント、掲示用イラスト

(3) 展 開

配時	学習活動・予想される生徒の考え	指導上の留意点
導入 5分	1 イラストをみてどのような場面であることを考える。 ・子どもとお母さん？ ・ジャンケンのおかし。	○ 自由な雰囲気公开发表させる。 ○ 祖母と孫の立場が逆になっている、おかしさに気付かせ、本時の資料に興味をもたせる。
展 開 40分	2 資料①を読み、主人公の気持ちについて考える。 迷惑ばかりかけられているこうちゃんはどういう気持ちだったのだろう。 ・なんでこんなに家族が嫌な思いをしないとけないんだろう。 ・病気だしなあ。	○ 認知症について簡単に説明をする。 ○ 主人公の弱さを引き出す発問であるため、「病気のせいだから仕方がない」など安易な反応で終わらないように追発問し、戸惑いや苛立ち、腹立たしさをださせる。
	3 資料②を読み、主人公の気持ちの変化を考える。 キヨちゃんはどんな気持ちで手帳に自分や家族の名前を書いたのだろう。 ・家族のことが大好きだから忘れたくない。 ・どんな自分になるのか不安でたまらない。	○ いろいろなことを忘れていたり、わからなくなったりすることに不安をもちながら生活している祖母の気持ちに気付かせる。
	自分や家族の名前を何度もなぞっている手帳を見たとき、こうちゃんはどんな気持ちになったのだろう。 ・忘れることがつらいんだな。 ・こんなことをしてることを知らなくてごめん。 ・ぼくのことを思ってくれているんだ。 ・家族であることを忘れたくないんだ。	○ 祖母の手帳を通して、本音の部分を知り、主人公が自己中心的な考え方をしていたことに気付かせるとともに、祖母に対する気持ちの変化を感じ取らせる。その際、最初の発問に立ち返り、生徒の発言を活用しながら主人公の気持ちの変容を整理し、板書する。
	4 資料③を読み、主人公の祖母への思いについて考える。 キヨちゃんがエレベーターの扉を2時間も見つけていた話をきいたこうちゃんはどんな気持ちになったのだろう。 ・キヨちゃんのためにできることがほかにないな。 ・キヨちゃん寂しいんだな。 ・キヨちゃんが好きなことをたくさん一緒にしよう。	○ 祖母の姿を通して、家族が互いを思い、自分ができることを実践しようとする大切さに気付かせる。 ○ 学習プリントをもとに、ペア交流をおこない、自分の考えを深めたり、広げたりさせる。
	5 主人公や祖母の姿から自分が家族のためにできることを考える。 ・家族が困っているときには、できることをしっかりやりたい。 ・自分ができることを積極的にしたい。	○ 主人公と祖母のかかわりのみで終わることがないように、自分と家族のつながりについて考えさせる。 ○ 生徒の発言については、思いを大切にし温かな雰囲気にする。
終末 5分	6 本時の感想をまとめる。	○ 「家族はつながってほしい、つながることで喜びを感じたいと願ってるんだね」とつぶやく。

